

山口のりひさ議員の6月県議会での質問と答弁の要旨を紹介します。

新型コロナウイルスの影響と今後の県政のあり方について



山口 ①新型コロナで医療や県民の暮らし、経済は深刻な危機に直面している。新自由主義の流れを転換し、社会保障・福祉切り捨て路線でなく、手厚い政治が求められる。②医療・介護などの必要物資や食料、エネルギーも海外に頼っている。内需・家計を経済の軸にすえ、命に必要なものは自分の国で作る内需型経済に転換すべき。

知事 ①医師・看護師等医療従事者の確保や地域包括ケア体制の確立や福祉人材の確保など、暮らしやすい地域づくりを進めてきた。②地球環境問題や食料の安全保障など、安定した地域社会づくりの観点で、地域内経済の循環促進に軸足を置いて取り組んでいきたい。

** 第2波、第3波に備えた課題について **

山口 コロナ対応で感染症患者を受け入れた医療機関は、1ヶ月1億円を超える赤字を抱えている。今回の補正予算は、こうした病院にどれほどの支援になるのか。

健康福祉部長 補正予算には感染患者受け入れのために確保した病床等への空床確保料13億円、施設整備などに56億円余、医療従事者への慰労金等に68億円を計上。これで十分と考えていない。今後も医療機関の声を真摯に受け止めて対応する。

山口 新型コロナの影響で家計が急変するなど学生の生活が悪化している。県立大学の学生への独自の経済支援、授業料の減額や免除を。

県民文化部長 経済的に困窮する学生が就学を断念することがあってはならない。学生や家庭の状況を把握しながら大学と検討し、学びの継続ができるよう適切に対処する。

** 千曲川緊急治水プロジェクトについて **

山口 台風19号災害時の千曲川の流量は、穂保地区でどれだけあったのか。また、緊急治水対策プロジェクトで、どれだけの水を流せるのか。

建設部長 国土交通省千曲川河川事務所の確認では毎秒で9000t流れていた。信濃川水系緊急治水対策プロジェクトによる遊水地整備などで流量を減らし、毎秒8600tが流れても越水しない。

✿質問を終えて✿

医療機関への支援は、共産党県議団も重ねて知事や対策本部に要望してきたもので、大いに歓迎します。現場の医療機関や県民のみなさんの声が政治を動かしていることを実感しています。

